

金沢大学附属病院で研修医をさせていただいている榎本真大です。2週間の NYC 研修で様々なプログラムに参加させていただきました。各プログラムで印象に残ったことを書き記そうと思います。

・医学英語：トニーに基本的な医療面接で用いる英語を教わりました。トニーは病院に来た患者の病の体験を聞き出すことを専門とする仕事（Narrative Mindworks）をしており、患者が持つ病の体験を聞き出すことの大切さを教わりました。Narrative という概念は日本の医療ではまだまだ浸透していませんが、今後の診療に役立てていこうと思えました。

・由水南さんのワークショップ：ブロードウェイで活躍されていた素晴らしい経験を持つ由水南さんのワークショップに参加させていただきました。ブロードウェイの舞台で輝くために、前例が全くない道を自らの力で切り開き、そのために何度も挑戦をされ、現在も挑戦を続ける由水さんの力強さを実感することができました。私自身も、自分の道を自分で切り開きたいと強く思うことができました。

・医療面接トレーニング：演劇の訓練を受けている模擬患者さんを相手に、実際の医療面接を行いました。緊迫感がある12分間の医療面接の後に、文法や発音、英語でのニュアンスの違いなど、その都度細かなフィードバックを受けることができました。特に発音に関するフィードバックは面白く、日本にいと指摘されない細かい発音の間違いの訓練を行うことができました。合計3日間のトレーニングを行いました、1日毎に自分の発音の進歩を感じる事ができました。

・Phelps Hospital での ALCS トレーニング：Terry Town というニューヨークの郊外にある街で、2日間の ACLS のトレーニングを受けました。のどかな自然に囲まれた病院で、ACLS の充実した研修を受けることができました。また、昼休みの間に現地で家庭医療を専攻するレジデントと会話でき、仲間を見つけたような気持ちになることができ、とても嬉しかったです。

・Bronx での Shadowing：ニューヨークで実際に医師として働く先生について実習をさせていただきました。Bronx の Community Healthcare Network で働く金原先生の診察を、1日じっくりと見学することができました。Bronx はトランスジェンダーの方が多く集まる地域であり、ニューヨークの中でも貧困層が集まる地域です。HIV や性感染症、予期しない妊娠、がん検診、肥満などの問題を抱えた患者が多くやってきました。ソーシャルワーカーのように背景が全く異なる患者さんそれぞれに適した提案を行う金原先生の姿を見て、地域医療の面白さを肌で感じる事ができました。

・ Hartsdale Mt. Sinai clinic での Shadowing : Hartsdale という日本人が多く集まる地域のクリニックでも、Shadowing をさせていただく機会がありました。木村先生という日本の漫才が好きな先生の診療を見学することができました。診察がとても面白く、先生がとても楽しそうに診療をする姿を見ることができました。また、昼休みにクリニックで働く日本人の方々との会話でも、アメリカに住む日本人の本音を聞くことができ、本当に面白かったです。(ここでは書けませんが、)

・ Mt. Sinai Medical School 病院見学 : Max と Alex という2人の学生に、ニューヨークの私立大学病院の案内をしてもらいました。私立大学のためとても綺麗な病院でした。とても興味深かったことは、学生の自習室に自分の体内の薬物濃度を測定するキットや麻薬の拮抗薬を無料で配布する自動販売機があったことです。他にも教室だけではなく解剖室、勉強部屋、学生寮なども見させていただき、ニューヨークの医学生と日本の医学生の共通点を多く発見することができました。

・ ラボ見学:「臨界期」の研究をされている森下先生の研究室を見学させていただきました。様々な精神疾患が、遺伝子だけではなく若い頃の環境要因によって左右されていることを裏付けるような研究成果が発表されていることを知り、感銘を受けました。また、臨界期を一時的に外すために、ケタミンのようなサイケデリック(幻覚剤)が注目されていることも興味深いお話でした。将来、社会的処方にも取り組みたい自分にとっては、大変興味深いお話でした。

他にもここでは書き尽くせないほど、沢山の体験をさせていただきました。

- ・ 現代的な高層ビルと、歴史を感じさせるゴシック風な建築物。
- ・ 多言語で交わされる会話、警察と救急車のサイレン、自動車のクラクション。
- ・ 地下鉄から漂う白い煙と熱気、その饅えた匂い。
- ・ 鼻奥までこびりつく大麻の匂い、通りすがりの奇声。
- ・ 自分の悲惨さを嘆く言葉が綴られた段ボールを持つホームレス達。

こんなニューヨークの雑踏を歩くことでしか、得られない経験と発見が確かにありました。

改めまして、この研修を企画してくださったアンドリュー先生、臨床研修センターの皆さん、ニューヨークで出会った全ての人々に感謝を申し上げます。

きっと私は、今後の人生で困難に直面するたびに、このニューヨーク研修のことを思い出します。それほど濃密で、感動的で、衝撃的な研修でした。